

公益社団法人

日本眼鏡技術者協会 会報

No. 138

2012年(平成24年)春号 4月発行



編集/発行 公益社団法人 日本眼鏡技術者協会

発行人 津田節哉 編集人 吉野勝

〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-6
TEL 06-4807-5070 FAX 06-4807-5009

URL <http://www.megane-joa.or.jp/>

E-Mail joa@maple.ocn.ne.jp

無断転載・転用・複製を禁じます

information (進級特例措置について).....2

議事報告(理事会).....3

大頭理事の褒章祝賀会 7

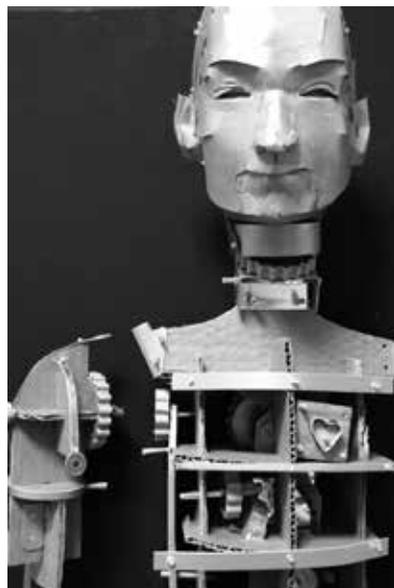
technological lecture 8

教育部関連、事務局より 11

眼鏡学校生の研究発表 12

国際部報告 14

認定講習会のお知らせ 15



写真：立体の紙細工
鶴田晴彦さん(大阪支部会員)の作品
タイトル/からくり男

JOAのテーマ 眼鏡学の確立はJOA

現在 S 級の方へお知らせ

現在 S 級の方が、生涯教育などを 3 回受講されると SS 級に進級できる特例措置があります。
特例措置期間は、来年(2013年)3月31日までとなっています。

▶ どんな講習会を受講すればいいですか

更新の場合と同じく生涯教育、実技講習、認定講習会を受講してください。

2回、3回受講が必要な方や会場に出掛けられない方は通信講座をご利用ください。

講習会のスケジュールは、6月初めにお届けする「教育特集号」をご覧ください。また、認定講習会として5月8、9日には大阪(天満橋OMMビル・EGF会場内)、5月16日には東京(日本眼鏡学会・年次セミナー、15、16ページにご案内掲載)で開催されますので、受講が可能な方はご利用ください。

▶ 3回受講しました
いつから SS 級になりますか？

来年(2013年)4月1日からSS級となります(SS級認定眼鏡士登録証のお届けは2013年4月末となります)。

▶ 来年度更新なんですけど・・・

S級の方で来年度更新(有効期限2013年3月31日)の方は、通常の更新と同じく3回受講することで、更新と同時にSS級に進級することができます。進級のためにさらに3回受講する必要はありません。

▶ SS 級に進級しないといけませんか？

SS級が認定眼鏡士の標準等級ですので、できる限り進級してください。

2013年4月1日以降、SS級に進級するためにはSS級認定眼鏡士試験を受験して合格された場合となります。

(試験の実施要項は、6月初めにお届けする教育特集号に掲載しています)

▶ 今 SS 級ですが、SSS 級になりますか？

特例措置は、S級からSS級に進級していただくためのものですので、SSS級には進級できません。SSS級に進級するためにはSSS級認定試験を受けてください。(試験の実施要項は、6月初めにお届けする教育特集号に掲載しています)

ご不明な点などありましたら、事務局までお問い合わせください。

☎ 06 - 4807 - 5070

FAX 06 - 4807 - 5009

✉ joa@maple.ocn.ne.jp

日時／平成24年3月7日(水)午後2時～4時
 場所／ニューオーサカホテル
 出席／理事24人中、出席18人、欠席6人。
 監事2人中、出席2人

理事会

代議員等選任細則などを承認

今年度の事業、予算とも了承

平成24年度事業計画案ならびに収支予算案

(議案1)

各担当部長より事業計画案ならびに収支予算案について説明(一部訂正)があり、意見や質疑を求めた。審議の上承認。*1
 (4～6ページ参照)

平成24年度生涯教育の実施について(議案2)

資料に基づき説明。承認された。*2

諸規定の制定について(議案3)

①代議員等選任細則案②ブロック会議運営規程案について追加や修正箇所を含め、担当部長から説明。質疑応答のあと承認。

その他(議案4)

- ①東日本大震災関連②今後の会議日程
- ③会員数ならびに認定眼鏡士登録者数
 (2月末現在 会員数：6,688人、認定

眼鏡士登録者：7,699人)④公益社団法人における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大について

*1 東日本大震災関係、また今後災害があった場合の支援に対する意見・提案(金銭的、物的、人的なもの)、広報活動費の削減の提案、生涯教育受講者数への質問、国家資格推進機構と当協会との関係についての質問、新入会員数などについて意見がだされました。

*2 生涯教育講習内容は11ページ、実施要項は6月初めに発行の教育特集号に掲載



理事会冒頭の会長あいさつ(要旨)

平成24年度の事業計画案、収支予算案で、特に予算案については内部留保が過大との指摘に対応して、10数年来赤字予算で進めてきた。その結果、内部留保は適正な水準になってきたため、今後はできるだけ経費を切り詰め、大きな赤字にならない予算にしていかなければならない。

また、会員数が年々減少しているが眼鏡技術者国家資格化の進展に密接に関連しており、眼鏡技術者国家資格推進機構(昨年10月に設立)とも連携して強力に推進していきたい。具体的には、眼鏡技術者国家資格推進機構として、明日(3月8日)に改めて「眼鏡技術者の国家資格化についての要望書」を民主党本部および厚生労働省に対して提出する予定だ。本格的な活動はこれからとなるので、充分な関心と関与を願う。併せて、眼鏡技術者国家資格推進機構と日本眼鏡士連盟、日本眼鏡技術者協会の組織の各位置付けと役割について、会員の皆様に丁寧に説明し理解を得ながら進めていきたい。理事の皆様には地元での説明を願う。

平成24年度 事業計画

1	総会の開催	平成24年6月に通常総会を開催し、①平成23年度事業報告および収支決算②平成24年度事業計画および収支予算③理事・監事の選任等について審議
2	理事会の開催	(1) 平成24年5月に理事会を開催 ①平成23年度事業および収支決算報告②6月に開催する通常総会の議案等について審議 (2) 平成24年10月に理事会を開催し、平成24年度上期事業報告および中間決算報告を中心として審議 (3) 平成25年3月に理事会を開催し、平成25年度事業計画および収支予算について審議
3	正副会長会議の開催	原則として、総会・理事会の開催に先立ち、議案の内容について審議
4	認定眼鏡士の 資質向上に 関する教育事業	<p>消費者の求めに応じ眼鏡を調製する眼鏡技術者に、消費者の視力を保護し、最新の技術知識によるビジョン・ケアを提供する上で、消費者の信頼が得られるよう眼鏡技術者の責務を明確にし、資質を維持・向上させるための資格認定試験および資格取得者（認定眼鏡士）に対する生涯教育を実施する。</p> <p>(1) SS級認定眼鏡士の認定試験＝眼鏡専門学校を卒業せずに認定眼鏡士の資格を取得しようとする眼鏡技術者を対象とした資格試験。試験合格者は、眼鏡専門学校の3年制のカリキュラムを修了した人と同一レベルの資格と位置づけている。試験の実施時期は例年通り8月～9月の予定。試験内容は、学科5科目と実技3科目 ①学科試験＝視機能系・マネジメント系・医学系・光学系・加工調整系の5科目、5会場＋α、1日②実技試験＝加工・視力測定・フィッティングの3科目、4会場、1日</p> <p>(2) 生涯教育＝眼鏡技術者に、ビジョン・ケアに関する最新技術・知識を教育するため、時機に適したテーマを選定し、全国各支部を巡回し講習会を開催。講習会は、例年通り6月下旬からスタートし、11月頃までの期間で、支部ごとに会場を確保して実施。具体的なテーマ、スケジュールなど詳細は5月に発行する「教育特集号（保存版）」に掲載 ①生涯教育（学科講習会）＝3時間／会場、30会場②実技講習会＝3時間／会場、20会場</p> <p>(3) SSS級認定眼鏡士への進級のための講習会ならびに試験＝認定眼鏡士として最上級の資格であるSSS級認定眼鏡士の試験は7科目の学科試験。試験に先立ち事前講習会を開催。実施時期は例年通り8月～9月の予定 ①SSS級認定眼鏡士試験事前講習会＝年1回、5日間 ②SSS級認定眼鏡士試験＝年1回、7科目2日間</p>
5	新入会員受付	眼鏡専門学校の卒業生および当協会の実施する認定眼鏡士試験に合格した人の新入会は年間を通して随時受付。
6	認定眼鏡士 登録・更新	眼鏡専門学校卒業生およびSS級認定眼鏡士試験に合格した人を対象に新規登録の受付、またすでに認定眼鏡士の登録を済ませたあと3年が経過し、かつ、更新に必要な生涯教育の受講回数を満たした人を対象に更新登録の受付を実施。受付期間は例年通り12月～来年3月末まで、登録・更新日は4月1日。

平成24年度 事業計画

7	眼鏡技術者の国家資格化推進の活動	<p>(1) 「眼鏡技術者国家資格推進機構」とタイアップし、消費者に対して眼鏡技術者の国家資格の必要性を訴求する活動を展開する</p> <p>(2) 認定眼鏡士リーフレットの内容を改定し、消費者に対して認定眼鏡士の目的、役割等についてPR活動を展開する</p> <p>(3) 各支部においては、10月1日メガネの日を中心に支部の実態に応じたPR活動を実施</p>
8	社会福祉事業	<p>眼鏡技術者の社会的使命を遂行するため、失明予防事業への協力やメガネの無料点検などの社会福祉活動を実施。</p> <p>(1) 毎年10月に開催される「目の愛護デー」の協賛活動は、支部単位で参加</p> <p>(2) 日本失明予防協会、世界オプトメトリー会議への失明予防活動助成金の寄付を年1回、下半期に実施</p>
9	広報活動事業	<p>(1) 会員向け広報誌の発行。4月、9月、12月の3回は、認定眼鏡士制度の運用状況、生涯教育テーマ・日程、総会・理事会等の決定事項、ビジョン・ケア関連技術などについては会報、また5月には年間教育日程を集約し教育特集号として発行</p> <p>(2) ホームページの管理・拡充。消費者、会員に向けて随時情報を更新</p>
10	組織強化と支部活動支援事業	<p>ブロック会議を開催し、協会の事業方針、活動内容を周知するとともに、支部役員との意見交換を通じ地方の声を協会の活動に反映させる。また、より広範囲の会員の声を反映し協会活動の活性化を図るための方策について会員組織部を中心として検討を開始する</p> <p>(1) 例年通り年1回、10ブロックごとにブロック会議を開催 (2) 支部活動支援のため、原則として5月に支部助成金を支給 (3) 青年部会の組織化について検討する</p>
11	眼鏡技術に関する国内外の資料および情報の収集、調査、研究事業	<p>ビジョン・ケアに関する新しい技術・知識について、資料および情報を収集するとともに、眼鏡技術者の国家資格取得を目指した活動を展開する。また、海外のオプトメトリストの制度、ビジョン・ケアについての最新情報などについて調査・研究を行い、セミナー開催による情報の共有化を図る</p> <p>(1) 眼鏡専門学校生の研究事業を助成するため、優秀な研究テーマに対して奨励金を拠出。該当研究内容については、広報誌などを通じて周知を図る</p> <p>(2) 学術的テーマに関しては、日本眼鏡学会との共催によるシンポジウムを開催し、より幅広い技術・知識の修得の場を提供</p> <p>(3) 認定眼鏡士制度が、消費者からより一層の信頼を得られるよう、認定資格制定委員会を開催し、制度の見直し・拡充を図る</p> <p>(4) 眼鏡技術者の国家資格確立に向け、「眼鏡技術者国家資格推進機構」の中で具体的な取り組みを行う</p>
12	海外眼鏡技術者との交流事業	<p>ビジョン・ケアに関する海外の状況を定期的に把握するとともに、日本の現状を紹介。相互の交流を通じてビジョン・ケアの質的向上を図る。</p> <p>(1) 毎年1回開催される世界オプトメトリー会議へ出席</p>
13	関係団体との協調に関する事業	<p>(1) 日本眼鏡関連団体協議会が原則として年4回開催する幹事会に出席、認定眼鏡士の登録状況報告などを通じて、眼鏡業界の動向把握・協調体制の確立に努める</p> <p>(2) 日本眼鏡販売店連合会との協調に努める</p> <p>(3) 各地区消費者センターなどの関連団体との協調に努める</p>

平成24年度 収支予算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

科 目	予 算 額	前年度予算額	前年度対比	備考
	(円)	(円)	(円)	
I. 収入の部				
1. 入会金収入	3,000,000	3,000,000	0	
2. 会費収入	42,763,000	44,352,000	△ 1,589,000	
3. 特別会費	42,380,000	31,685,000	10,695,000	
4. 教育部収入	23,385,000	25,447,000	△ 2,062,000	
5. 雑収入	465,000	465,000	0	
6. 支部事業収入他	1,256,000	1,207,000	49,000	
当期収入合計 (A)	113,249,000	106,156,000	7,093,000	
前期繰越収支差額	20,023,382	24,977,273	△ 4,953,891	(注1)
収入合計 (B)	133,272,382	131,133,273	2,139,109	
II. 支出の部				
1. 事業費	69,878,000	66,091,000	3,787,000	
(1) 教育関連事業	30,800,000	27,880,000	2,920,000	
(2) 普及啓蒙事業	10,000,000	15,000,000	△ 5,000,000	
(3) 社会福祉事業	1,000,000	1,250,000	△ 250,000	
(4) 広報活動事業	3,050,000	2,950,000	100,000	
(5) 組織強化事業	12,286,000	5,479,000	6,807,000	
(6) 調査研究事業	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	
(7) 海外交流事業	2,410,000	2,660,000	△ 250,000	
(8) 関係団体事業	300,000	300,000	0	
(9) 支部事業費	9,032,000	8,572,000	460,000	
2. 管理費	53,672,000	56,575,000	△ 2,903,000	
(1) 本部管理費	39,770,000	41,016,000	△ 1,246,000	
(2) 支部管理費	13,902,000	15,559,000	△ 1,657,000	
3. 予備費	0	0	0	
当期支出合計 (C)	123,555,000	122,666,000	884,000	
当期収支差額 (A)-(C)	△ 10,301,000	△ 16,510,000	6,209,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	9,722,382	8,467,273	1,255,109	

(注1) 24年度予算額の欄の前期繰越収支差額20,023,382円は、平成23年度決算見通しに基づく予想数値を記載

大頭理事の瑞宝中綬章 受章祝賀会

昨年秋、瑞宝中綬章を受章した大頭仁氏(当協会理事、早稲田大学名誉教授)の受章祝賀会が、3月2日午後6時半から新宿区のリーガロイヤルホテル東京で盛大に行なわれ、大学・眼鏡関係者など全国から約160人が参集し祝福した。主催は同祝賀会実行委員会、共催は日本眼鏡学会、日本医用光学機器工業会(日医光)。大頭氏の瑞宝中綬章は、光化学・医用光学、眼鏡分野における教育研究の功績が評価されたもの。

祝賀会は、拍手で大頭理事長夫妻を迎え入れ、畑田豊彦日本眼鏡学会副理事長の司会で開会。はじめに実行委員会を代表し津田節哉日本眼鏡学会副理事長(当協会会長)が日本の眼鏡教育、眼鏡技術者の社会的評価向上に貢献してきた大頭氏の実績を紹介し「ビジョンケアに対して常に最新・最適な情報を国民に提供するため、今後、眼鏡士の国家資格が結実するものと考えている。これまでのご指導を引き継いでいきたい」と述べた。

次いで、橋本周司早稲田大学副総長が大頭氏の業績を紹介、所敬東京医科歯科大学名誉教授、さらに白山晰也日本眼鏡関連団体協議

宝中綬章 受章祝



会代表幹事が「日本の眼鏡技術者のレベルが世界に追いつくように、また国民がそれを認知していただけるように、期待に応えていきたい」と、功績を称えた。続いて和久山孝日医光会長代行の乾杯の発声で祝宴に入った。

大頭氏は「ウィーン工科大学への留学を経て帰国後、眼科用光学機器の国際標準化機構(ISO)の日本代表として、まだ日本に組織がなかった時代から携わり、多少はお役に立てたのではないかと。卒業生、眼鏡学会、日医光の皆さんから、かくも盛大に私の祝賀をしていただき、また多くの方から祝辞をいただき身に余る光栄。健康を維持し、この時代を乗り切ってほしい」と謝辞を述べた。

訃報

西田廉輔氏(当協会理事、福岡県支部代議員)が、3月7日かねてより病氣療養中のところ逝去されました。94歳。西田氏は、平成14年から17年まで副会長、12年から理事、さらに福岡県支部代議員として本部や支部の運営にご尽力いただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

渡辺昭男氏(当協会元理事、神奈川県支部代議員)が、病氣療養中のところ3月11日逝去されました。67歳でした。渡辺氏は、平成12年から18年まで理事、さらに代議員としても当協会の発展にご尽力されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

福田昭二氏(群馬県前支部長)が、3月26日急逝。85歳でした。福田氏は、平成17年から23年まで群馬県支部長として当協会の運営に寄与されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

田中義晴氏(香川県支部長)が、病氣療養中のところ3月31日逝去。77歳。田中氏は、平成18年から香川県支部長として当協会の運営にご尽力されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

メガネの掛け心地を追求する③

technological lecture

日本眼鏡技術専門学校 講師 吉野勝

第2章 力の伝わり方と圧力

2-3 機関車の動輪

突然ですが、50代以上の方には懐かしい蒸気機関車です。実は私も子供の頃からの「鉄ちゃん」（当時はそんなコトバはありませんでしたが）でして、小学5年生の時に「鉄道友の会関西支部」に入会して、おじさんたちに連れられて消えゆく蒸機（辞書にはない熟語ですが、愛好家はこう書きました）に乗りに行ったり、写真を撮りに行ったりしたものです。



図・写真 12

図・写真 12 は蒸機の 9mm 模型の写真ですが、好きな方は上が D51 型、下が C62 型とすぐおわかりでしょう。ともに現在でも人気のある蒸機です。

この型式番号の C とか D とかいうのは、動輪（動軸）すなわち駆動力をレールに伝える車輪の数を記号化したものです。

図・写真 13 は動輪部分を拡大したのですが、横から見ると上の D51 は、車輪（動輪）を 4 個みることが出来ます。下の C62 は D51 より大きな動輪が 3 個見えるでしょう。アルファベットの A B C の順に C 型なら 3 個、D 型なら 4 個というようになっています。

C62 型は特急列車を索引した花形機で、高速性が売り物です。貨物に比べると軽量の客車列車を高速で索引するために、直径の大きい動輪を使います。C62 の実物の動輪は直径が 175cm もあります。

一方、D51 型は 1115 両も作られた貨物専用機の花形。日本各地で見ることができて、デゴイチの愛称で親しまれました。

重量ものの貨物列車ですから、速力よりも索引力を求められます。そのため小さな（140cm）動輪を 4 個並べることで、レールとの接触面積を増やして粘着力（摩擦力）を高めています。

さらに貨物用機関車は、動輪全体にかかる重量を大きくする必要があります。図・写真 13 でみると動輪の前後に小さな車輪を配置してありますが、D51 型は動輪の前後に各 1 個ずつ、C62 型では各 2 個ずつです。機関車重量が同じとすると、7 個の車輪で支える C62 より、ひとつ少ない 6 個で支える D51 のほうが、車輪 1 個にかかる圧力がより大きいことになります。

さらに極端な例として、急勾配路線や大重量を牽引する炭坑路線で使われた 4110 形式というのがあります（図・写真 14）。

5個の動輪（E型）のみの構成。

機関車の重量（力）をすべて動輪だけに集中して、かつ5輪で接地面積を稼ぐことで粘着力を大きくしています。

以上のように、力（機関車では重量）は、接触する有効面積により、圧力という形に変換されて接触面を押さえるのです。

接触面積を広く稼ぐことにより、同じ力でも圧力は小さくなり、逆に全体の摩擦力は増加します。

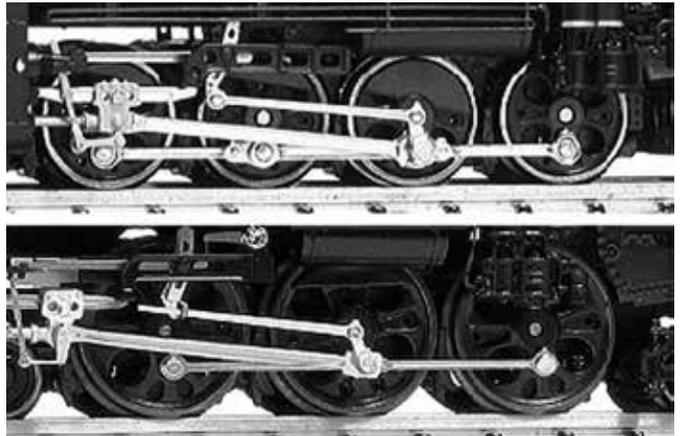
すなわち

圧力 = 力 ÷ 面積

です。

大きな力を掛けようとするれば、その接触面積を大きくする必要があります。そうしないと圧力が限界を超えてしまいます。

— 以上は私が中学生の頃に、鉄道を通じて覚え学んだ知識です。「勉強もしないで」と親に叱られてばかりでしたが、こんな知識がいまごろ役に立っています。



図・写真 13



図・写真 14

technological lecture

2-4 鼻パッドの接触面

機関車の話から、強く押さえる力を小さな圧力に分散し、かつ摩擦力を大きく稼ぐためには、接触面の有効面積が必要なことがわかりました。

メガネフレームで皮膚と接触する場所は、鼻パッド、そして耳まわりです。

重いレンズを使うときの鼻パッドは、鼻との接触面積を大きくするために、デザイン的におかしくない限り大きなパッドを使うようにします。レンズが軽ければ小さなパッドでもかまいませんが、ずり落ちや痛み、跡形がつくなどの訴えがあれば大きいパッドに交換します。

ただ大きければよいというわけでもなく、鼻梁の凹凸に合わせられるちょうど良いサイズを選ぶようにしてください。

なにか起これば、ということでもなく予防的に、最初の販売時点で「お客様の場合は～ですので」とコンサルティングしながら、もともとのパッドから違うものを選んで付け替えるようにすれば、「ただ売だけの店」ではない、プロの店っぽくなるでしょう。



図・写真 15

最近見かけるのが、安価な輸入物などによくついている、大きく湾曲した鼻パッドです。

おそらく技術力の低い量販店などの要望でできた商品なのでしょう。図・写真 15 のように接触面が大きくカーブしていると、パッド自体は大きくても場合によっては接触面が小さくなって、良くない場合があります。

この手のパッドは、いい加減なフィッティングでも、それなりに鼻に沿ってしまうのが欠点です。

①接触面積を考えたパッドを選び

②それを適切にフィッティングする

ということを怠りなく行うようにしたいものです。

technological lecture

2-5 耳まわりでの接触

耳まわりのフィッティングのポイントは、耳介に引っかけのフィッティングにならないようにすることです。

ふつうのメガネフレームは、耳介うら（耳のうしろ）で引っかけて止めるようにできていない、ということですが。

これを理解していただくのも、面積と圧力で説明ができます。

図・写真 16 は、耳掛け部の断面を示したのですが、

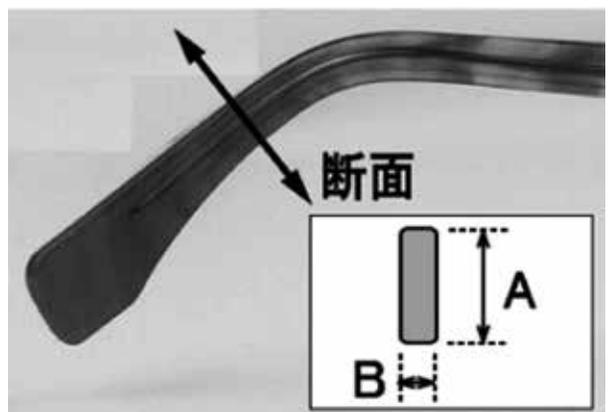
A は耳掛け部の幅、B はその厚みです。

耳介うらに引っかけるフィッティングでは、皮膚（耳介うら）に接触するのは B の面です。

いっぽう側頭部を押さえる、いわゆる抱き込みのフィッティングをして耳介うらへ接触させないようにすると、頭部に接触するのは A の面です。どちらが接触面積が大きいのか、どちらがよりソフトな圧力になるかは一目瞭然です。もしそれでも耳介うらに引っかけるフィッティングで快適性を求めるなら、モダンの厚み（B）は、いまの 2～3 倍の厚みが必要になるに違いありません。

最近鼻パッド同様、A の面にアールをつけて、いいかげんなフィッティングでもそれなりに沿ってしまうようなモダンの製品が多いですが、それが必ずしも良いだけのものではないことは、鼻パッドと同じです。

パーツももちろん大切ですが、パーツを使いこなす技術こそ、求められているのではないのでしょうか。



図・写真 16

今年度の生涯教育、実技講習会のテーマ・内容です。

詳細は、6月上旬にお届けする教育特集号に掲載します。

生涯教育講習会（3テーマで1講習）

1. オートレフの正しい利用法と雲霧の大切さ
(1時間30分)
2. 気づく力を高める眼鏡技術者のための眼科学
「眼の加齢変化と眼疾患」
(1時間)
3. 枠入り眼鏡レンズの許容誤差 (30分)

認定講習会（日本眼鏡学会主催、東京都支部共催）のご案内を15、16ページに掲載しています。

実技講習会

（8テーマ、各支部の任意開催でテーマも支部で選択）

1. 検査の結果思わぬ値がでたら
2. 累進屈折力レンズ
一屈折補正を見直して、
快適な度数調整のポイントをつかもうー
3. 両眼視下での屈折測定とその応用
4. 斜位の各種検査法*
5. カバーテストをマスターしよう*
6. メガネ店でできるビジョントレーニング
7. フィッティング
ー基礎の基礎から累進レンズのレイアウトまでー
8. 自覚式屈折測定の基礎

*は昨年と同一テーマですので、昨年受講された方は受講回数にカウントされません。

転勤・引越のシーズンですね。

変更届もお忘れなくお願いします。

自宅住所・勤務（支店）先の変更、改姓など、されてませんか？ ご案内や書類、会報、会費年度シール、認定眼鏡士の登録証などが、お届けできない場合があります。

- 変更届は、毎年5月末から6月初めにお届けしている教育特集号に同封されていますのでご利用ください。また、電話・FAX・E-mailでも結構です
- ご結婚などによる改姓は、新旧2つの姓が明記されている運転免許証や厚生年金手帳などの公的書類をコピーして、変更届とともに郵便・FAXなどでお送りください。その際、会員番号も必ず明記してください

来年度、認定眼鏡士の更新年に当たる方（有効期限が2013年3月31日の方）はできるだけ年内に受講回数を満たしてください。

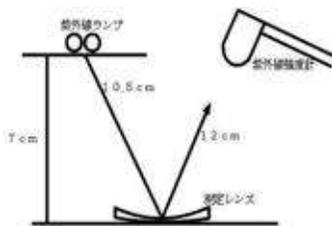
- 「生涯教育に行く時間がない」「会場が遠い」という場合は、通信講座をご利用ください
- 「受講回数かわからない」「不足しているかも・・・」という場合は、事務局までお気軽にお問い合わせください

眼鏡学校生の研究発表

当協会では、眼鏡技術の調査・研究事業の一環として、眼鏡学校生も繋がるもので、卒業論文などを選考し、各校から優秀者を選出し23年度の研究発表の概要を、次号と合わせご紹介いたします。

日本眼鏡技術専門学校
奥 翔太朗さん

レンズ後面における紫外線反射



実験方法

測定結果 (単位は $\mu\text{W}/\text{cm}^2$)

レンズの種類	反射による紫外線量		
	1回目	2回目	平均
1 CR 普通カーブ シルバーミラー	51	45	48.5
2 FC 8カーブ シルバーミラー	0	0	0
3 FC 8カーブ ハードコート	0	0	0
4 FC 8カーブ マルチコート	0	0	0
5 CR UV400 マルチコート	17	15	16
6 CR マルチコート	14	14	14
7 CR コート無し	0	0	0

目的を「レンズの種類と表面処理（反射防止コートなど）によるレンズ後面の紫外線の反射の違い」とし、実験器具と測定レンズを次のように紹介。1 紫外線光源：ニコン調光テスター用、ピーク波長は350nm。2 紫外線量の測定器：デジタル紫外線強度計 UV-340 3 実験に用いた測定レンズ（昭和光学製）：① CR、普通カーブ、シルバーミラー② FC、8カーブ、シルバーミラー③ FC、8カーブ、ハードコート④ FC、8カーブ、マルチコート⑤ CR、UV400、マルチコート⑥ CR、マルチコート⑦ CR、コート無し、また測定に用いた各レンズの分光透過率曲線を図で示した。

実験方法は、図のような装置で、レンズ後面の紫外線の反射量を測定した。フォトクロミックの黒化装置（ニコン製）を用いた。照射角と紫外線強度計の角度は約30°。各2回測定し、その平均を求め表に示し、説明を加えている。

考察として「レンズのマルチコートは可視域に対して反射を低減するように設計されている。紫外域や赤外域については考慮されていない。マルチコートの分光反射率曲線を見ると、可視域よりも波長の短い近紫外域、可視域より長い赤外域は反射率が大きくなっている事がわかる。特に紫外

側の方がより大きくなる。このためマルチコートを施したレンズの方が紫外線の反射が大きくなるのはそのためであると考えられる。紫外線の透過率については今回の実験では実施しなかったが、反射率の場合と反対に表面から紫外線が反射により失われるので、おそらくマルチコートを施したレンズの方が紫外線のカット率は良くなることが予測される。表面処理の無処理のレンズは、レンズに紫外線を吸収することでUVカットしているため、ほとんどの紫外線はレンズに吸収されてしまう。そのため反射は無くなるものと考えられる。ミラーコートを施した場合は内面には金属膜を蒸着してある。金属の場合の光線の反射は波長にはあまり関係なく反射するので、当然ながら紫外線の反射は大きくなる」と述べた。

最後に「コート無しは、紫外線反射が0。（テスターの台の部分、反射が0で設計されている）マルチコートレンズは、紫外線の反射が増加する。シルバーミラーコートは、紫外線の後面反射が大きく、日中で使用する時、目への影響に注意する必要がある」とまとめている。

への研究助成を行っています。これは、優秀な眼鏡技術者の育成に
ています。

なお、紙面の関係上、内容は抜粋、表や調査結果は一部のみの掲載です。

キクチ眼鏡専門学校
岡下 雄大さん

視標桿を照らす明るさを
変化した場合の
深視力の変動

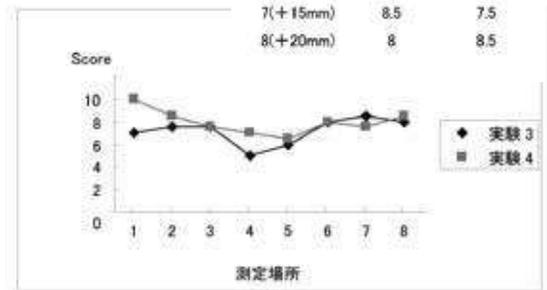
まず「深視力検査は自動車運転免許二種免許及び大型免許取得時や更新時のみに限定されているが、全てのドライバーが視物に対する前後差の判断能力を把握することは、安全運転や事故防止を促進させるものだと考えた。夜間事故は昼間事故に比べ死亡事故が3倍という報告がある。そこで本研究は自動深視力計を用い、薄暮視を想定した部屋の照度約60～100ルクスの環境下で、深視力計の視標桿の明るさ約300ルクスから約40～80ルクスに低下させた。この結果、前後差の判断能力は被検者全員の平均で最小6.9～最大20.7%低下するという結果となった。そしてこの低下する原因は錐体細胞の働きによるものだという考察が得られた」と、実験・研究について要約している。

続いて、緒論、本実験として、実験装置、測定方法(測定方法の決定、本実験における瞬間法)、実験環境(実験室、測定距離、実験室の明るさ、その他)、各実験についての説明(実験1～4)、被検者、実験順序の詳細を説明。

実験結果については、各被験者の測定結果および被験者の平均、各被験者の応答内訳を13個のグラフと表で示した。さらに、視力を低下させた

実験3と4の比較

測定場所	実験3 (弱補正)	実験4 (弱補正2)
1(-20mm)	7	10
2(-15mm)	7.5	8.5
3(-10mm)	7.5	7.5
4(-5mm)	5	7
5(+5mm)	6	6.5
6(+10mm)	8	8
7(+15mm)	8.5	7.5
8(+20mm)	8	8.5



場合の測定結果の比較として、一人の被験者の結果についてグラフと表を示し、解説している。

結論として、「錐体細胞の働きを抑圧すると視物の前後差の判断、すなわち遠近感の判断は低下することがわかった。実際、本実験の全てにおいて、錐体細胞の働きを抑圧した場合の実験結果は、錐体細胞の働きを前者よりも抑圧していない場合の実験結果を上回ることにはなかった。そして、これらの結果や考察は、ドライバーに対する眼鏡処方、視力の確保が十分に必要であることに繋がる」とし、実験結果を振り返りながら「従って、ドライバーに対して眼鏡処方を行う際は、そのドライバーが主に運転する時間帯を加味することが必要である。また、完全補正下では疲れてしまうという場合でも、機械的に度数を落として処理してしまうのではなく、被検者のライフスタイルの中で、運転が占める割合を考慮し、個々のドライバーとの十分なコンサルテーションによって事故防止に間接的に貢献することができるのではないだろうか」と結んでいる。



第18回アジア・太平洋オプトメトリー大会 (APOC)

金井国際部長が APOC 次期会長に再選

金井国際部長
(APOC 会長)

第18回アジア・太平洋オプトメトリー大会（以下 APOC、会長は金井 O.D）は、シンガポールオプトメトリー協会（SOA）の招きで11月23日から26日までのスケジュールにより、シンガポールのサンテック・コンベンションセンターで開催されました。大会の主催者は APOC で、香港工科大学と SOA が協力して開催の準備に当たりました。

大会には22カ国から延べ531名が参加しましたが、その内213名が海外からの参加者でした。日本からは眼鏡学校関係者ら14名が参加。参加国は日本のほか、オーストラリア、カンボジア、中国、フィジー、フランス、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、モルジブ、ネパール、ニュージーランド、フィリピン、スリランカ、台湾、タイ、イギリス、米国、ベトナムでした。

APOC は2年に一度開催されますが、加盟国代表が出席する総会と招待講師による講演や研究成果を発表する場となっている学術プログラムから構成されています。大会のテーマは人口の急速な高齢化と世界で最も近視の比率が高いシンガポールにふさわしく、急増する国民の視力ケア、健康管理への需要を背景に『プライマリーケア・プロフェッションとしてのオプトメトリーの役割』でした。シンガポール政府からガン・キン・ヨン厚生大臣が来賓として招かれ、歓迎式の祝辞でガン厚生大臣は、シンガポールのオプトメトリストの役割を拡大する可能性について触れ、眼疾患診断のための薬剤の使用を将来認可する方向で検討に入ると述べられました。

この大会には、アジア・太平洋地域より126件の研究発表の申し込みがあり、内39件が口演、41件がポスター発表として受理されました。日本からは、大阪医科大学 LD センター、オプトメトリストの奥村智人氏の研究発表があり、高い評価を得ました。この大会のハイライトは、香港大学医学部眼科、デーヴィッド・ウオン主任教授の講演で、香港のオプトメトリストによる糖尿病性網膜症のスクリーニングおよび失明防止に果たす役割についてでした。

初日に開催された総会では、任期満了に伴い役員選挙が行われ、私が会長に再選されました。また、次回2013年の開催国として韓国が選ばれました。

なお、この大会には日本から HOYA（株）、（株）ニコン・エシロールの2社がプラチナスポンサー、またセイコーオプティカルプロダクツ（株）がゴールドスポンサー、さらに（株）ニデック、（株）トプコン、（株）シャルマン、東海光学（株）の4社がシルバースポンサーとして多大なご協力をいただきました。紙面をお借りして感謝申し上げます。



シンガポールオプトメトリー協会会長 Dr. コー・リャン・ウィ
(左)、APOC 前会長 Dr.eps (右)、金井 APOC 会長 (中央)

認定講習会のお知らせ

日本眼鏡学会「第16回年次セミナー」当協会 東京都支部共催

毎年開催の日本眼鏡学会の年次セミナーで、今年度は東京都支部共催となります。
終日の受講で2単位取得できますので、ぜひ受講してください。

■開催日時・会場

日時／5月16日(水) 午前9時30分～午後5時00分(予定)

会場／東京都新宿区・日本青年館 中ホール(B2)

(東京都新宿区霞ヶ丘町7-1 TEL03-3401-0101)

最寄り駅：JR千駄ヶ谷駅・信濃駅下車 徒歩9分

■内容 研究発表 ポスター発表含む(順不同、追加の予定あり)

「岩橋善兵衛の望遠鏡」藤原義久氏／近江時計眼鏡宝飾専門学校

「青色光を考慮した眼鏡レンズ」小笠原恒氏／(株)ニコン・エシロール

「測定法の違いによる調節ラグの比較」山内朋子氏／ワールドオプティカルカレッジ

「乱視度数誤差および乱視軸誤差が光学性能に与える影響」

伊藤歩氏／セイコーエプソン(株)

「夜間用眼鏡」鈴木栄二氏(ほか1名)／東海光学(株)

「レンズコーティングの耐久性」内田貴大氏(ほか1名)／ワールドオプティカルカレッジ

「昼夜間での自覚測定結果の違いと応用」金澤雄一郎氏／(株)ニデック

「累進屈折力レンズの新設計手法『両面制御設計』について」

森貴照氏(ほか2名)／セイコーエプソン(株)

(第16期定時総会)(昼食)

パネルディスカッション形式による企画講演

(順不同、追加の予定あり、以下のタイトルはいずれも仮題)

a) 累進屈折力レンズの性能表示

1) 眼鏡レンズの性能表示法 白柳守康氏／セイコーオプティカルプロダクツ(株)

2) ボケと歪みのリアルタイム表示 篠原俊英氏／セイコーエプソン(株)

3) 明瞭・揺れ指数に基づく性能表示 祈華氏／HOYA(株)

b) 機能性を持たせたこれからの眼鏡

1) 可変焦点レンズ 橋本信幸氏／シチズンホールディングス(株)

2) 機能性カラーレンズ 長尾淳司氏／東海光学(株)

3) 装用型情報端末(HMD) 三宅信行氏／(株)ニコン

(懇親会)：終了後、別会場で開催 ※懇親会参加費5,000円(ご希望の方)

■単 位 2単位(終日受講)

■受 講 料 7,000円(日本眼鏡学会会員は無料)

■申込締切日 5月10日(木)

■申込方法 16ページの申込書をコピーしご記入の上、日本眼鏡学会までFAXしてください

第16回日本眼鏡学会・年次セミナー参加申込書(一般用)

2012年5月16日 日本青年会館・中ホール

- 平成24年5月16日の年次セミナーを受講したく、下記の通り申し込みます(一人一枚)

貴社(店)名: _____

受講者名: _____

連絡先ご住所: 〒 _____

電話番号: _____ E-mail: _____

- 受講料 7,000円は事前に現金書留にて下記事務局にお送りいただくか、当日受付でお支払いください。

※手数料は受講者様でご負担いただきますよう、お願い申し上げます

※現金書留にてお支払いの方で、**当日欠席の場合、返金いたしません**ので、ご了承願います

※事前に欠席の連絡をいただいた方は、返金いたします(なお、現金書留封筒代および手数料は差し引かせていただきますので、ご了承ください)

受講料 事前送付(現金書留) 当日のお支払い

送付先 〒110-0016 東京都台東区台東 1-8-7 加藤ビル 眼鏡光学出版(株)内
申込みをいただいた方には、折り返し年次セミナー参加証(ハガキ)を送付いたします。

(公社)日本眼鏡技術者協会 会員用

- (公社)日本眼鏡技術者協会会員または認定眼鏡士の方は、番号をご記入ください

会 員 N o . _____

または

認定眼鏡士登録 N o . _____

- 昼食弁当の申し込み: 昼食弁当を 1,000円でご用意いたします。セミナー当日の時間節約と会場周辺の食堂に限りがあるため、なるべく日本眼鏡学会で用意したお弁当をご利用ください。お支払は当日会場にて、引き換えをお願いします。

お弁当の注文を する しない

- 懇親会の参加申し込み: セミナー終了後の懇親会です。参加費 5,000円は当日受付でお願いします。

懇 親 会 に 参加する 参加しない

※この用紙に記入後、FAXでお申し込み下さい。複数のご参加の場合は、お手数ですがコピーしていただきそれぞれお送り下さい。

日本眼鏡学会事務局: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-8-7 加藤ビル 眼鏡光学出版(株)内
TEL03-5818-1051 FAX 03-5818-1870